

# 同志社大学

## 2008年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年 3月 20日提出

所 属	職 名	氏 名
法学部	教授	建林 正彦
研 究 題 目	現代民主政治と政党組織（党本部・地方・国会議員）の変容に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本年度は、日本を含む先進民主主義諸国における、政党組織の比較研究に向けて、理論的に、またある程度実証的にも研究を進めた。</p> <p>理論的な側面では、EU議会の活性化を軸に、ヨーロッパの政治学界において政党研究が再び脚光を集めている現状を確認した。2009年7月に予定されているEU議会選挙では、初めてEUレベルでの政党の選挙活動が認められ、他方でEUレベル政党への政党助成がEUからなされ、またEUレベル政党から、各国政党への政治資金の還流が法制度として禁止されたという。ここから予想されることは、EUレベルの政党政治、選挙政治がいわば人工的に生み出されることである。政治状況は現在進行中であり、まだ結論を導くのは早計でもあるが、現状はそうした予想通りに進みつつあるようである。またこのような政党政治の変化を踏まえ、ヨーロッパでは政党の政策位置を確認するための大規模な調査が計画されているようである。他方、議会研究の進展の著しい、ラテンアメリカ諸国についても、議員レベルの大規模サーベイが行われ、政党や議員の政策位置に関する研究が著しい進展を見せているようである。</p> <p>このような現状を踏まえ、実証的な研究として、日本の国会議員についても、サーベイ調査の準備を進めているところである。過去の議員調査との比較可能性を考慮しつつ、前述のような他国で進行中の調査との関係にも配慮しつつ、調査を行うことを検討中である。</p>	